



小売 業界

出店・戦略ハンドブック

小売企業を中心とした
18業界・173社の
動向・戦略を一挙掲載

2025

調剤薬局・ドラッグストア

25年度にも業界総売上高10兆円超へ、調剤が大幅伸長

一般社団法人日本チェーンドラッグストア協会(JACDS)によると、2023年度のドラッグストア(DgS)の総売上高は前年度比5.6%増の9兆2022億円(推定値)だった。総店舗数は2万3041店となり、前年度に比べて957店増えた。

売上高をカテゴリー別に見ると、調剤・ヘルスケアが3兆657億円、フーズ・その他(書籍・文具など)が2兆5034億円、ホームケアが1兆9968億円、ビューティケアが1兆6363億円だった。また、調剤の売上高は前年度比9.5%増の1兆4025億円だった。高齢化に伴い処方箋枚数が増えており、売り上げも調査を開始した15年度以降は毎年約10%ずつ伸長している。JACDSの池野隆光会長は「ドラッグストアに調剤機能があるのは便利だと、消費者に受け入れられている。調剤の比率はまだ伸びるだ

ろう」と話す。

25年度には総売上高が10兆円を超えると予測され、同年度には調剤医療費総額に占めるDgSのシェアが20%を超えると思われる。

ツルハHDとマツキヨが売上高1兆円を達成

業界首位であるウエルシアホールディングス(株)(ウエルシアHD)は、23年度に売上高1兆2173億3900万円を記録。3年連続で売上高が1兆円を超えた。さらに、2位の(株)ツルハホールディングス(ツルハHD)は売上高1兆274億6200万円、3位の(株)マツキヨココカラ&カンパニーは1兆225億3100万円となり、上位3社が1兆円企業となった。

また、(株)コスモス薬品も9649億8900万円と1兆円が目前に迫る。同社の売上高は前期比16.6%増と他社と比較しても特に伸びた。このほかの企業も一

様に売上高を伸ばしており、DgS業界の勢いは続く。

出店も小売業界の中で特に多く、上位企業の国内出退店としてウエルシアHDは出店98店、退店37店、期末店舗数2812店、ツルハHDは出店128店、退店69店、期末店舗数2653店、マツキヨココカラ&カンパニーは出店114店、退店59店、期末店舗数3464店、コスモス薬品は出店139店、退店7店、期末店舗数は1490店となった。

コスモスも1兆円企業に、スギHDは海外展開を積極化

24年度も業界全体でさらなる業績拡大が見込まれる。コスモス薬品は25年5月期の売上高を1兆370億円と見込んでおり、上位3社に続いて1兆円の壁を突破する見通しだ。

また、スギホールディングス(株)(スギHD)は期初予想を達成すると業界順位が変動する。同社の成長エンジンは海外事業だろう。24年6月までに台湾、ベトナム、タイ、モンゴルなど7カ国で現地の有力企業と提携している。今後、現地での店舗展開のほか、PB商品の供給や商品の共同開発など、幅広く事業を展開する。

他業界と比べてもDgS業界の出店数は特に多く、駅前、ロードサイド、ショッピングセンターなど立地も様々だ。24年度の国内出退店として、ウエルシアHDは出店102店、退店42店、期末店舗数2872店、ツルハHDは出店111店、退店87店、期末店舗数2677店、マツキヨココカラ&カンパニーは出店120店、退店40店、期末店舗数3544店を計画

ドラッグストア上場各社の業績

(単位:百万円、%)

企業名	23年度		24年度(予)		決算月
	売上高	前期比増減率	売上高	前期比増減率	
ウエルシアHD	1,217,339	6.4	1,287,000	5.7	2月
ツルハHD※	1,027,462	5.9	1,080,000	5.1	5月
マツキヨココカラ&カンパニー	1,022,531	7.5	1,050,000	2.7	3月
コスモス薬品	964,989	16.6	1,037,000	7.5	5月
サンドラッグ	751,777	8.9	803,000	6.8	3月
スギHD	744,477	11.5	810,000	8.8	2月
クスリのアオキHD	436,875	15.3	485,000	11.0	5月
クリエイトSDHD	422,330	10.9	457,600	8.4	5月
カワチ薬品	285,960	1.5	292,000	2.1	3月
Genky DrugStores	184,860	9.3	202,000	9.3	6月
パローHD(DgS事業)	170,870	6.2	178,000	4.2	3月
薬王堂HD	142,241	10.4	152,200	7.0	2月
サツドラHD	95,520	9.2	100,000	4.7	5月

※24年度の数値は期初発表時のもの、決算月は24年度から2月に変更となる

靴

大手靴小売チェーン3社、ABCマート1強際立つ

エービーシー・マート（以下ABCマート）、チヨダ、ジーフットの靴大手小売チェーンにおいて、ABCマート1強が鮮明となっている。2024年2月期は、新型コロナウイルス感染指定が2類から5類に移行し、人々の外出が増加。これにより靴需要が拡大した。ただ、コロナ禍で閉店や赤字の度合いで明暗が分かれ、年間の出店数、総店舗数、売り上げ面で他の2社を大きく引き離す情勢が続いている。さらにはオッシュマンズ事業や近年増加している大型の複合店もその差を示すに要因となっている。ABCマートは一段とトップの座を

固めるに至っている。他方、チヨダ、ジーフットは不採算店の閉店がようやく一段落つき、さらには赤字から脱却する状況にあり、25年2月期は飛躍の年

となりそうで、ABCマートを追走していくかまえ。

靴小売チェーン大手売り上げ

(単位: 億円)

	23.2	24.2	25.2 (予)
エービーシー・マート	1,979	2,315	2,400
ジーフット	656	646	640
チヨダ	736	779	800

※チヨダの売上高は靴事業。エービーシー・マートは単体売上高。

靴小売チェーン大手出店

	23.2			24.2			25.2 (予)		
	出店	閉店	期末店舗数	出店	閉店	期末店舗数	出店	閉店	期末店舗数
エービーシー・マート	47	26	1,084	45	34	1,095	45	21	1,119
ジーフット	3	72	711	12	70	653	3	5	651
チヨダ	11	44	921	10	46	885	25	20	954

※エービーシー・マートは国内店舗

(商業施設新聞調べ)

(株)エービーシー・マート

【所在地】〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-12-1

【代表者名】野口 実

【資本金】199億7200万円

【売上高】3441億9700万円(2024年2月期)

国内出店は40店を計画

靴小売最大手の(株)エービーシー・マートは、2025年2月期の単体出店計画は出店40店、閉店20店を予定している。また、オッシュマンズ事業は5店の出店、1店の閉店を予定している。

24年2月期の出店退店は、国内単体が40店、退店33店となり、同期末店舗数は1081店となった。24年2月期から連結範囲に加わった(株)オッシュマンズ・ジャパンが運営する「OSHMANS」(OS)は5店を出店し、1店を閉店したことで、期末店舗数は14店となった。この結果、期末国内店舗数は1095店とな

った。出店立地は、オッシュマンズを含めて郊外型SCが41店と中心となった。業態では「GRAND STAGE」(GS)、「ABC-MART SPORTS」(AS)の出店を拡大したほか、通常の「ABC-MART」や「AS」など複数のバナーを1カ所に集めた複合業態の出店も拡大した。改装は55店(うち35店は増床改装、27店は業態変更)で実施した。この結果、24年2月期末時点の「GS」は87店、複合業態は103店となった。また「GS」「OS」の同施設内における共同出店を進めており、24年2月期末の店舗数は8店。

国内店舗の営業状況は、通期の売上高増収率(通販含む)は、「OS」を除き、

全店で前期比17.2%増、既存店が同16.8%増となった。インバウンドの増加で高単価スニーカーの販売好調やアパレル売り上げが伸長、既存店の客単価が前期比8.8%上昇した。オンライン販売は、デジタル売上高(実店舗におけるEC在庫の販売分を含む)が同5.6%増となった。この結果、国内売上高は同20.1%増の2378億7400万円、セグメント利益は同30.6%増の457億2500万円となった。

海外は34店出店、25店の退店を行った結果、24年2月期末の海外店舗数は392店となり、グループ総店舗数は1487店となった。



書名小売業界 出店・戦略 ハンドブック 2025
体裁・頁数A4 変形判、176 頁
定価17,600 円 (税込)
発刊日2024 年 9 月 30 日